

Kansai Economic Insight Monthly

2018/12/25

Vol.68 November/December

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR数量分析センター長)、木下祐輔(APIR調査役)・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰(各APIR研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要旨

- 景気は足下横ばいも、先行きは悪化を見込む※ -

- ✓ 10月の生産は7-9月平均比+3.1%と上昇し、9月の挽回生産の影響もあり好調な結果だが、持続性については注意が必要。
- ✓ 11月の貿易収支は10カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年同月比縮小した。米中貿易摩擦の影響で、中国向け半導体関連(通信機、科学光学機器)輸出が大幅減少した影響が大きい。
- ✓ 11月の景気ウォッチャー現状判断DIは、2カ月連続の前月比改善。関空の機能が平常に戻ったことでインバウンド需要や百貨店の売上が堅調に伸びていることなどが改善に寄与した。
- ✓ 9月の関西2府1県の「関西コア」賃金指数は17カ月ぶりの前年比減少。消費者物価上昇もあり、実質現金給与総額は2カ月連続で減少しており、実質賃金を巡る環境に悪化が見られる。
- ✓ 10月大型小売店販売額は4カ月ぶりの前年比プラスだが小幅にとどまった。百貨店は国内向け高額品が好調で2カ月ぶりのプラス。スーパーは季節商材の低調で2カ月ぶりのマイナス。
- ✓ 10月の新設住宅着工戸数は2カ月ぶりの前年比減少。持家と分譲は好調を維持しているが、貸家は大幅減少し、全体を押し下げた。
- ✓ 10月の有効求人倍率は有効求人数と有効求職者数が共に増加した結果、6カ月ぶりの前月比悪化。完全失業率は2カ月連続で小幅悪化した。依然低水準であり、雇用情勢は堅調である。
- ✓ 11月の公共工事請負金額は前年比4カ月ぶりの、前月比2カ月連続のいずれもプラスで、持ち直しの動きが見られる。
- ✓ 10月の建設工事出来高は8カ月連続の前年比増加。インバウンド・復興関連作業で今後も増加すると期待される。
- ✓ 11月関空の訪日外客数は2カ月連続で前年比増加し、伸びも加速。入国者数は回復している。国籍別では、9月は台風で関空が一時閉鎖されたため、いずれの国・地域でも大幅に減少した。
- ✓ 中国11月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は3カ月連続で前月比下落し、28カ月ぶりに景気分岐点の50となった。米中貿易摩擦の影響を受け、輸出新規受注指数は6カ月連続で50を下回った。また、工業生産は10年ぶり、社会消費品小売総額は15年ぶりの低い伸びとなった。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。

【関西経済のトレンド】

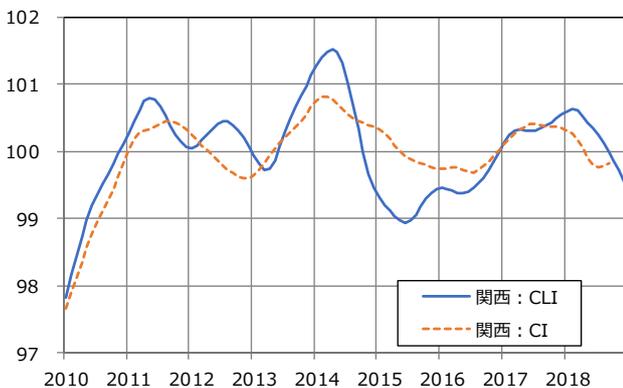
	2017年		2018年										
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生産	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↗	
貿易	↗	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘
センチメント	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘
消費	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	
住宅	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↘	↘	↗	↘	
雇用	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↘	
公共工事	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↘	↘	↗
中国	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘

(*トレンドの判断基準)

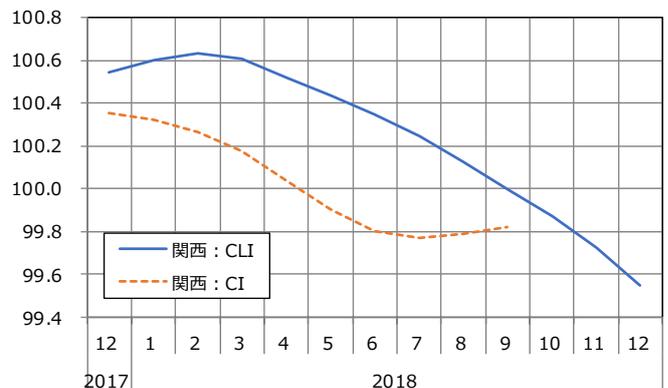
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域臨工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超過)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作CLI)の推移】

CI一致指数・試作CLIの推移(2010年1月~2018年12月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2017年12月~2018年12月)



【鉱工業生産動向】

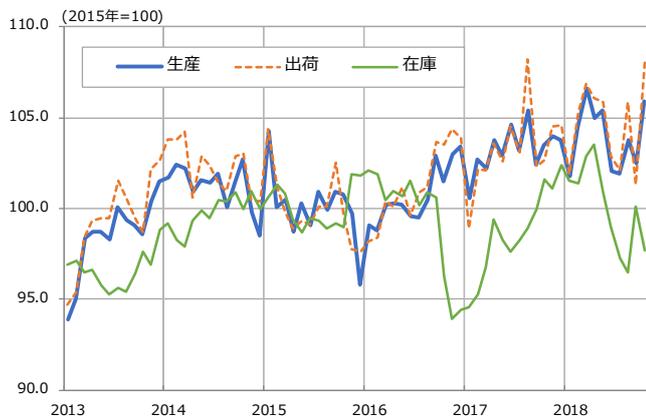
(1) 関西の生産動向

関西の鉱工業生産動向は、2018年10月より、基準を2010年から15年に改定した。10月の鉱工業生産動向(速報値:季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は105.9で、前月比+3.3%と2カ月ぶりの上昇。出荷は108.1で、同+6.7%と2カ月ぶりの上昇。在庫は97.7で、同-2.4%と2カ月ぶりに低下した。近畿経済産業局は同月の基調判断を、前月の「生産は緩やかな持ち直しの動きから一服感」から「生産は緩やかな持ち直しの動きで推移」へと上方修正した。10月の生産は7-9月平均比+3.1%と上昇しており、9月の挽回生産の影響もあり好調な結果となったが、持続性については注意が必要である。

なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2015年=100)を見ると、10月(確報値)は110.4で、前月比+33.7%と2カ月ぶりの大幅プラス。なお、7-9月平均比は自然災害の影響もあり、+7.0%の伸びにとどまった。

10月の生産指数を業種別にみると、鉄鋼・非鉄金属(前月比+14.4%、2カ月ぶり)、化学(除.医薬品)(同+8.2%、5カ月ぶり)、輸送機械(同+4.9%、2カ月連続)等が増産となった。一方、石油・石炭製品(同-19.1%、3カ月ぶり)が減産となった。

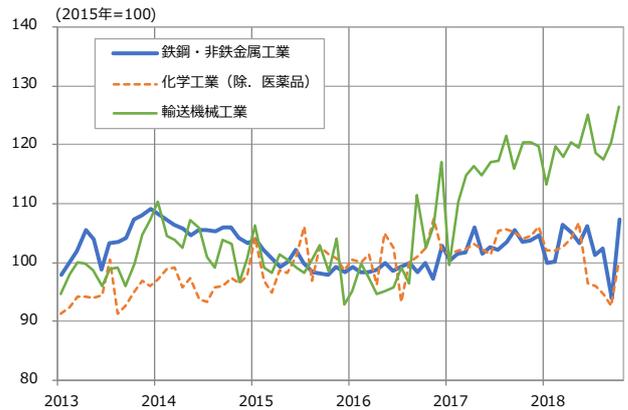
関西の鉱工業生産動向の推移(2013年1月~2018年10月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013年1月~2018年10月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

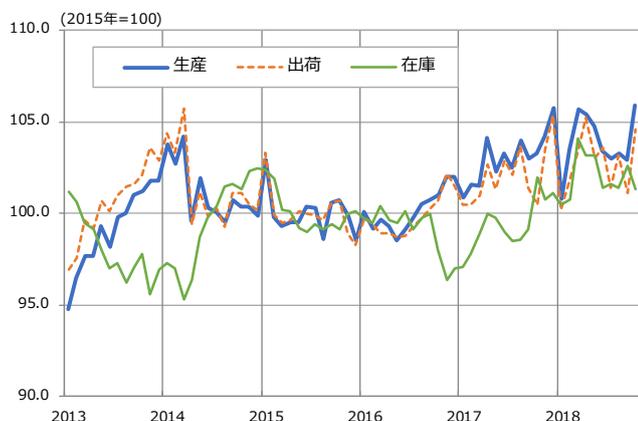
全国10月の鉱工業指数(確報値:季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は105.9で前月比+2.9%と2カ月ぶりの上昇。出荷は104.6で同+3.5%と2カ月ぶりの上昇。在庫は101.3となり同-1.3%と2カ月ぶりに低下した。

業種別にみると、汎用・業務用機械(前月比+7.1%)、電子部品・デバイス(同+8.7%)、自動車(同+3.1%)等が増産となった。一方、生産用機械(同-3.1%)、化学(除.無機・有機化学工業)(同-1.2%)、石油・石炭製品(同-5.3%)が減産となった。

製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、11月は前月比+0.6%、12月は同+2.2%といずれも増産が予測されている。予測が実現すれば、10-12月期の生産は7-9月

期比+3.7%となり、2 四半期ぶりに大幅な増産が見込まれる。なお、10 月実績を 7-9 月平均と比較すれば+2.7%と好調である。

全国の鉱工業指数の推移(2013 年 1 月~2018 年 10 月)



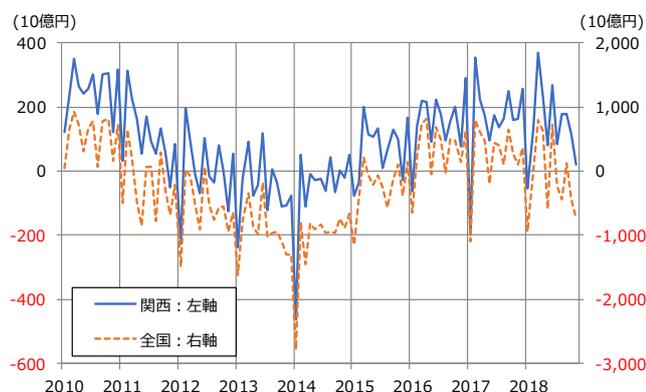
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西 11 月の貿易収支は+202 億円と 10 カ月連続の黒字となった。黒字幅は前年同月(+1,628 億円)と比べて-87.6%縮小した。中国向け半導体関連需要(通信機、科学光学機器等)の減少が主な要因となり輸出額が減少した一方で、資源価格の高騰を受けて輸入額が増加したため。

関西・全国の貿易収支の推移(2010 年 1 月~2018 年 11 月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料」近畿圏

また、全国 11 月の貿易収支(速報値)は、-7,373 億円と 2 カ月連続の赤字となった。貿易収支は前年同月(+1,052 億円)から 8,425 億円縮小した。

(2) 輸出

関西 11 月の輸出額(速報値)は 1 兆 5,049 億円で、前年同月比-1.0%と 2 カ月ぶりの減少。財別にみれば、通信機、科学光学機器等が減少した。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値、2015 年平均=100)によると、11 月(速報値)は 114.4 となり、前月比+3.6%上昇した(2 カ月連続)。10 月(同+33.7%)と比べると小幅上昇にとどまったが、10-11 月平均は 7-9 月平均比+9.0%と上昇した。

全国 11 月の輸出額(速報値)は 6 兆 9,276 億円で、前年同月比+0.1%と 2 カ月連続の増加。財別に見れば、船舶、有機化合物、電気計測機器等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(2010 年 1 月~2018 年 11 月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料」近畿圏

(3) 輸入

関西 11 月の輸入額(速報値)は 1 兆 4,847 億円で、前年同月比+9.4%と 2 カ月連続で増加した。財別にみれば、原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス等が増加した。

なお、日銀の実質輸入(季節調整値、2015 年平均=100)は、11 月(速報値)に 109.5 となり、前月比+3.0%上昇した(2 カ月連続)。前月(同+39.4%)と比べると小幅上昇であるが、10-11 月平均は 7-9 月平均比+14.1%と大幅上昇した。

全国 11 月の輸入額(速報値)は 7 兆 6,649 億円で、前年同月比+12.5%と 8 カ月連続の増加。財別に見れば、原油、液化天然ガス、石油製品等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月~2018年11月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西 11 月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)の貿易収支は+1,123 億円と 22 カ月連続の黒字であり、黒字幅は前年同月比-55.4%大幅縮小した。輸出(9,824 億円)は 2 カ月ぶりの減少(同-7.5%)。財別に見れば、通信機、科学光学機器等が減少した。輸入(8,701 億円)は 2 カ月連続の増加(同+7.5%)。財別に見ると、通信機、石油製品等が増加した。

うち、対中貿易収支は-1,442 億円と 5 カ月連続の赤字となり、赤字幅は前年同月比+92.6%拡大した。うち輸出(3,779 億円)は 3 カ月連続の減少(同-8.8%)。財別に見ると、通信機、科学光学機器等が減少した。輸入(5,222 億円)は 2 カ月連続の増加(同+6.7%)。財別に見ると、通信機、事務用機器等が増加した。

対米貿易収支は+1,008 億円となり、黒字幅は前年同月比+35.2%拡大し、2 カ月連続で増加した。輸出(2,207 億円)は 2 カ月連続の増加(同+17.8%)。財別に見れば、遊戯用具、無機化合物等が増加した。輸入(1,199 億円)は 2 カ月連続の増加(同+6.3%)。財別に見れば、半導体等製造装置、天然ガス及び製造ガス等が増加した。

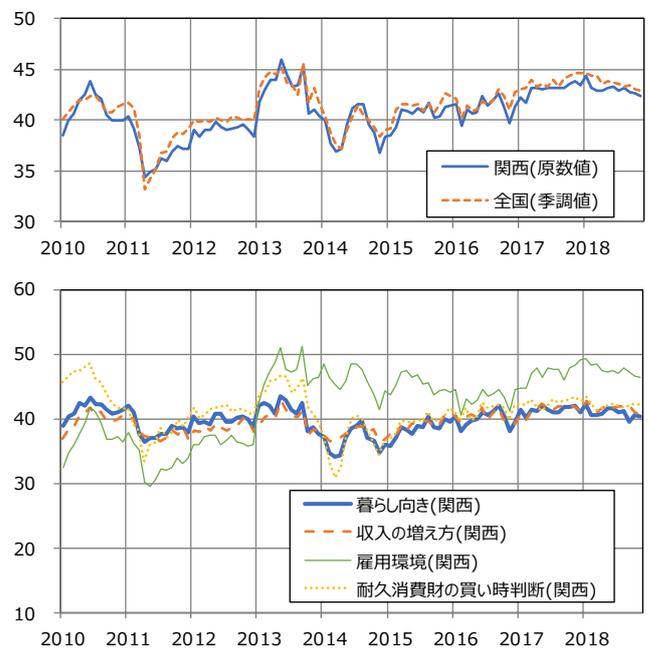
対 EU 貿易収支は+88 億円と 4 カ月連続の黒字となり、黒字幅は前年同月比-18.2%縮小した。輸出(1,689 億円)は 2 カ月連続の増加(同+12.3%)。財別に見れば、遊戯用具、原動機等が増加した。輸入(1,601 億円)は 4 カ月ぶりの増加(同+14.7%)。財別に見れば、医薬品、非鉄金属等が増加した。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西 11 月の消費者態度指数(原数値)は 42.4 と前月比-0.2 ポイント小幅下落し、3 カ月連続で悪化した。同指数構成項目の内訳を見ると、耐久消費財の買い時判断指数(42.0)は同-0.3 ポイント下落し、3 カ月ぶりの悪化。雇用環境指数(46.4)は同-0.2 ポイント下落し、3 カ月連続の悪化。暮らし向き指数(40.3)は同-0.2 ポイント下落し、2 カ月ぶりの悪化。一方、収入の増え方指数(40.9)は同+0.1 ポイント小幅上昇し、4 カ月ぶりの改善であった。

消費者態度指数の推移(2010年1月~2018年11月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

全国(季節調整値)は 42.9 と前月比-0.1 ポイント小幅下落し、2 カ月連続の悪化。米中貿易摩擦の高進により経済情勢が悪化すると懸念によるものと見られる。同指数構成項目の

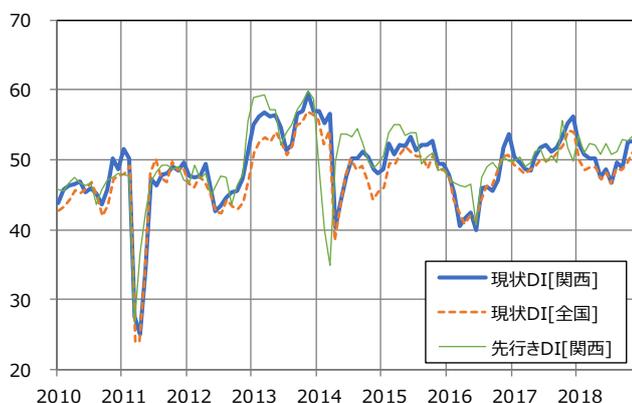
内訳を見ると、暮らし向き指数(40.8)は同-0.6ポイント低下し、3カ月連続の悪化。雇用環境指数(46.6)は同-0.2ポイント低下し、2カ月連続の悪化。一方、耐久消費財の買い時判断指数(42.4)は2カ月連続で同横ばい。収入の増え方指数(41.8)は同+0.5ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善であった。内閣府は基調判断を「弱い動きがみられる」と3カ月連続で据え置いた。

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西11月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は52.8と前月比+0.3ポイント上昇し、2カ月連続の改善。景気判断の分かれ目となる50を2カ月連続で上回った。気温が例年よりも高めで推移し、季節商材の売れ行きが鈍い一方で、閑空の機能が平常に戻ったことでインバウンド需要や百貨店の売上が再び堅調に伸びていることなどから、現状判断DIは改善した。また、全国の同指数は51.0と同+1.5ポイント上昇し、こちらも2カ月連続の改善となり、11カ月ぶりに50を上回った。

先行き判断DI(季節調整値)は関西では53.4と前月比+0.6ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。暖冬に伴い、冬物商材の売れ行きが厳しい一方で、インバウンド需要の堅調さへの期待から、先行きは改善が見込まれている。また、大阪万博の開催決定により、幅広い業界から全体的なムードの盛り上がりを期待するコメントが見られた。全国は同+1.6ポイント上昇し52.2となり、3カ月ぶりの改善であった。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月～2018年11月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費】

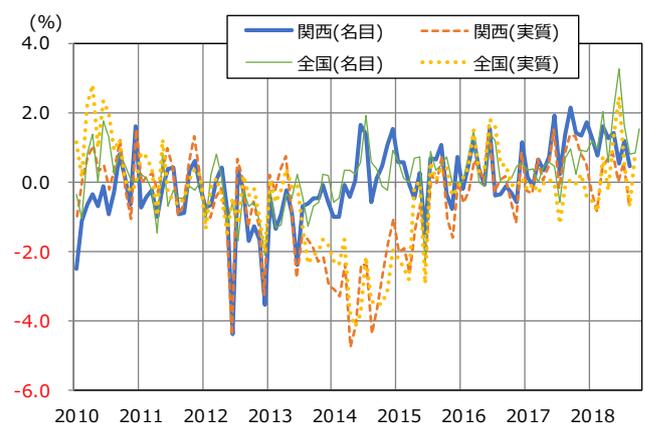
(1) 現金給与総額

9月の現金給与総額を公表府県について見ると、兵庫県は前年同月比+0.6%(14カ月連続)と増加した。一方、大阪府は同-0.8%(16カ月ぶり)、京都府は同-2.5%(2カ月連続)、和歌山県は同-3.4%(2カ月ぶり)とそれぞれ減少した。

京都・大阪・兵庫の加重平均をとった9月の「関西コア」賃金指数(APIR推計)は前年同月比-0.6%減少し、17カ月ぶりの悪化であった。また、物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた9月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比-1.6%減少し、2カ月連続の悪化であった。名目賃金の伸びが減速する一方で、消費者物価が上昇したため、実質賃金を巡る環境に悪化が見られる。

全国10月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比+1.5%と15カ月連続で増加し、速報値と同水準であった。内訳を見ると、所定内給与は同+1.5%(速報値:同+1.3%)と19カ月連続の増加。伸びは前月から加速。所定外給与は同+1.7%(速報値:同+1.9%)と12カ月連続の増加。特別給与は同+2.4%(速報値:同+6.8%)と2カ月連続の増加。原油価格の高騰から実質現金給与総額は同-0.1%(速報値:同-0.1%)と3カ月連続で減少した。

現金給与総額の推移(2010年1月～2018年9月)



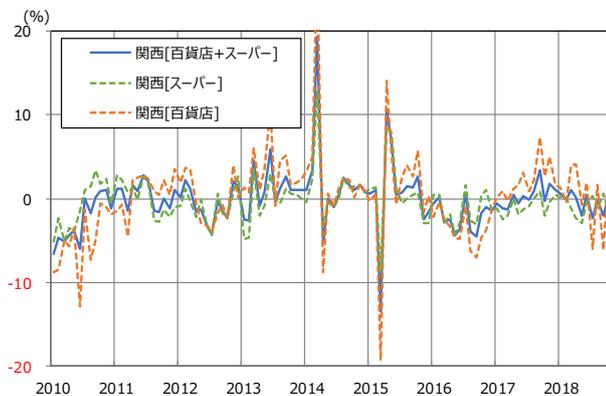
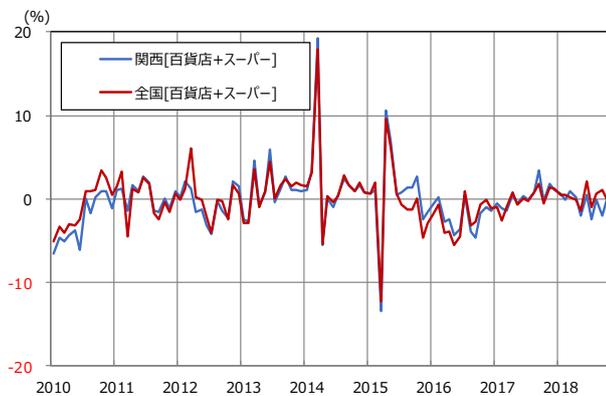
(注)関西・関西コア(京都・大阪・兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

(2) 大型小売店販売額

関西 10 月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は 3,105 億円となり、前年同月比+0.1%と 4 カ月ぶりのプラス。うち、百貨店は同+2.3%と、2 カ月ぶりのプラス。国内向け高額品や食品の売り上げが好調であるため。なお、関西の百貨店免税売上(日銀大阪支店)は、10 月に同+8.2%(9月:同-12.5%)と 2 カ月ぶりの上昇。単価は 4 カ月連続で低下(同-11.7%)した。また、スーパーは同-1.4%と 2 カ月ぶりのマイナス。気温が高く、鍋関連や冬物肌着など季節品の売れ行きが弱かったため。

大型小売店販売額の推移(2010年1月~2018年10月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

全国 10 月の大型小売店販売額(全店ベース)は 1 兆 5,862 億円、前年同月比-0.2%と 3 カ月ぶりのマイナス。うち、百貨店は同-0.1%と 4 カ月連続のマイナス。一方、スーパーは同-0.2%と 5 カ月ぶりのマイナス。なお、小売業販売額(季節調整済指数、後方 3 カ月移動平均)は前月比+0.7%と 3 カ月連続で上昇した。経済産業省は基調判断を「緩やかに持ち

直している」と前月から据え置いた。

【住宅投資】

(1) 新設住宅着工の動向

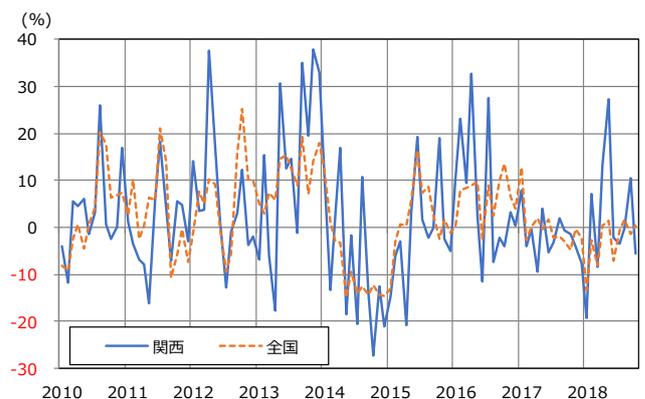
関西 10 月の新設住宅着工戸数は 11,496 戸と前年同月比-5.5%と 2 カ月ぶりの減少。持家と分譲(母子調)を維持しているが、貸家は大幅減少し、全体を押し下げた。

利用関係別見ると、持家は 3,301 戸で前年同月比+7.8%と 3 カ月連続の増加。分譲は 3,593 戸で同+8.2%と 4 カ月連続の増加であった。うち、マンションは 1,612 戸で同+6.3%と 2 カ月連続の増加。一戸建ても 1,967 戸で同+9.1%と 3 カ月連続の増加。一方、貸家は 4,571 戸で同-20.0%と 2 カ月ぶりの減少。銀行が個人向け融資の判断基準を厳格化しており、着工が落ち込んだと考えられる。

一方、全国 10 月の新設住宅着工戸数は 83,330 戸となり、前年同月比+0.3%と 2 カ月ぶりの改善。利用関係別に見ると、持家は 25,949 戸で同+4.6%と 2 カ月ぶりの増加。分譲は 21,394 戸で同+9.2%と 3 カ月連続の増加。貸家は 35,225 戸で同-7.3%と 2 カ月連続の減少となった。

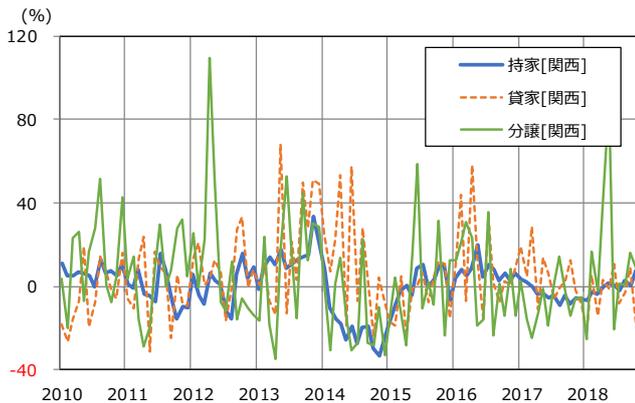
関西は全国と同様、持家と分譲が増加したものの、貸家が減少といった動きになっている。消費税増税前の駆け込み需要の影響には引き続き注意が必要である。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2018年10月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2018年10月)



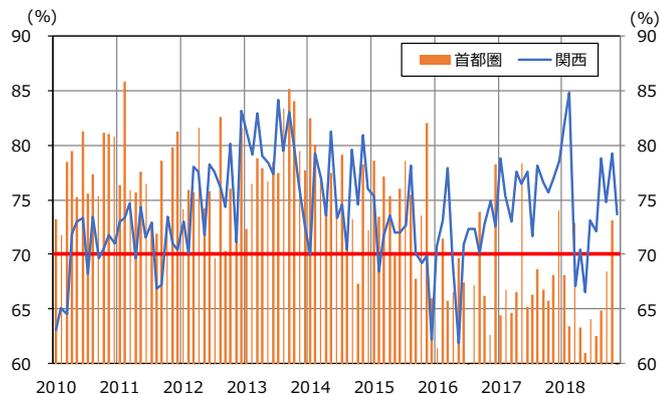
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

(2) マンション市場動向

関西11月のマンション契約率は73.6%(季節調整値:APIR推計)となり、前月から-5.6%ポイント低下し、消費増税を見据えた大量供給が影響していると考えられる。契約率は2カ月ぶりに低下したが、好不調の目安となる70%を6カ月連続で上回った。地域別(原数値)に見ると、兵庫県では55.3%と低調だったが、和歌山県では100%、京都市部、奈良県では90%超と好調であった。

また、同月の首都圏のマンション契約率は54.0%(季節調整値:APIR推計)と前月比-19.0%ポイントと4カ月ぶりに低下した。8カ月連続で好不調の70%を下回り、リーマンショック期以来の低水準となった。価格の高止まりが原因だと思われる。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2010年1月~2018年11月)



(出所) 株式会社不動産研究所「マンション市場動向」

【雇用動向】

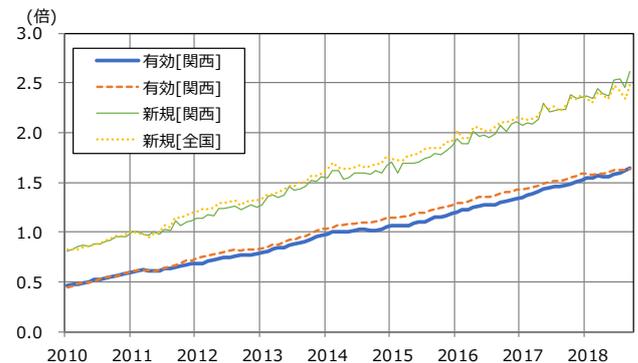
(1) 求人倍率の動向

関西10月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.63倍で前月比-0.01ポイント小幅低下し、6カ月ぶりの悪化。内訳をみると、有効求人数が同+0.7%と3カ月連続で増加。また、有効求職者数は同+1.5%と5カ月ぶりに増加。結果、有効求人倍率は小幅悪化となった。依然として労働需給は引き締まった状態が続いている。府県別に見ると、京都府・和歌山県を除く4府県で前月から悪化した。奈良県が1.50倍で同-0.04ポイント、滋賀県が1.36倍で同-0.03ポイント、大阪府が1.82倍で同-0.01ポイント、兵庫県が1.48倍で同-0.01ポイントそれぞれ低下した。一方、京都府が1.56倍と同横ばい、和歌山県が1.39倍と同+0.01ポイント上昇した。

関西10月の新規求人倍率は2.53倍で前月比-0.08ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。一進一退の状態が続いている。新規求人数は同+6.0%と2カ月ぶりの増加、新規求職者数も同+9.3%と2カ月ぶりに増加した。雇用情勢は引き続き堅調であるといえよう。

全国10月の有効求人倍率(季節調整値)は1.62倍と前月比-0.02ポイント低下し、8カ月ぶりの悪化。新規求人倍率は2.40倍で同-0.10ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化となったものの、高水準で推移している。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月~2018年10月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2018年9-10月)

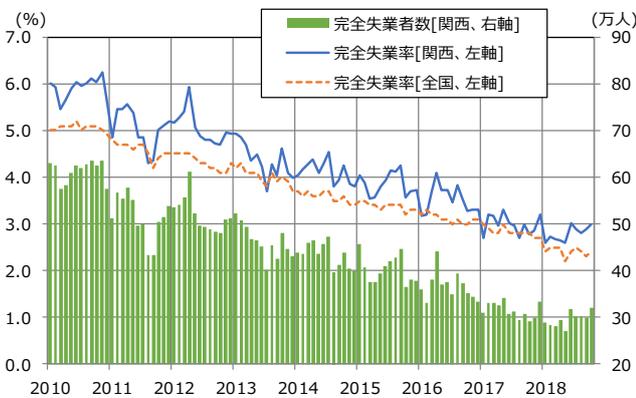
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
9月	1.64	1.64	1.39	1.56	1.83	1.49	1.54	1.38
10月	1.62	1.63	1.36	1.56	1.82	1.48	1.50	1.39
前月差	▲0.02	▲0.01	▲0.03	0.00	▲0.01	▲0.01	▲0.04	0.01

(2) 完全失業率の推移

関西 10 月の完全失業率(季節調整値: APIR 推計)は 3.0%と前月比+0.1%ポイント小幅上昇し、2 カ月連続で悪化した。完全失業者数(季節調整値: APIR 推計)は 32.1 万人で前月比+2.2 万人と 2 カ月ぶりに増加した。内訳を見ると、就業者数(季節調整値: APIR 推計)が同-3.5 万人と 2 カ月連続で減少する一方、非労働力人口(季節調整値: APIR 推計)は同+1.5 万人と 2 カ月連続で増加。失業率は小幅上昇したものの低水準が続いており、引き続き雇用情勢は堅調であるといえよう。

全国 10 月の完全失業率(季節調整値)は 2.4%と、前月比+0.1%ポイント小幅上昇し 3 カ月ぶりに悪化した。完全失業者数(季節調整値)は 168 万人と前月比+8 万人と 3 カ月ぶりに増加した。理由別では、「非自発的な離職」は同-3 万人減少、「自発的な離職(自己都合)」が同+2 万人増加、「新たに求職」は同+6 万人増加した。

完全失業率の推移(2010 年 1 月~2018 年 10 月)



(出所)総務省「労働力調査」

【公共投資・建設工事】

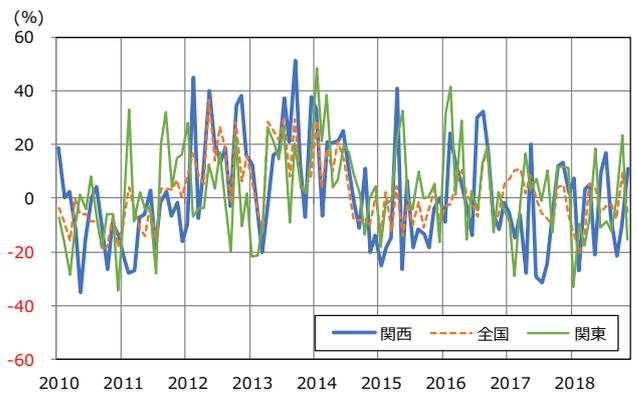
(1) 公共工事請負金額

関西 11 月の公共工事請負金額は 947 億円で前年同月比+10.9%と 4 カ月ぶりのプラス。また、季節調整値(APIR 推計)で見ると、前月比+23.8%と 2 カ月連続のプラスとなった。今後、自然災害からの復旧・復興関連作業で関西の公共工事請負金額が増えると期待される。

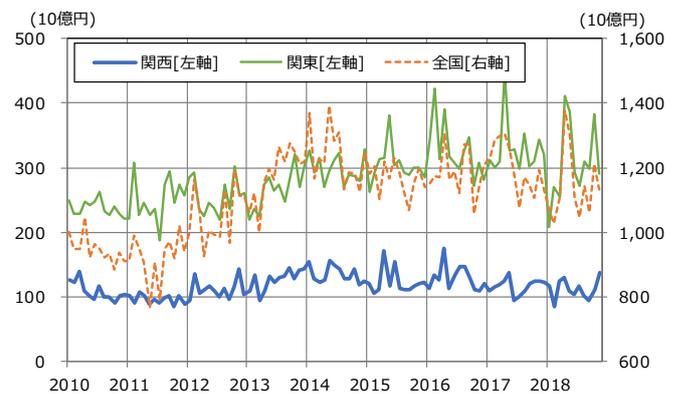
工事場所別にみると、増加したのは京都府(前年同月比+27.9%)、和歌山県(同+16.0%)、兵庫(同+2.2%)であった。一方、滋賀県(同-37.0%)、奈良県(同-29.0%)、大阪府(同-4.4%)で減少した。

一方、関東は 2,327 億円で前年同月比-15.4%と 2 カ月ぶりの減少。全国は 8,189 億円で同-5.2%と 2 カ月ぶりの減少であった。季節調整値(APIR 推計)で見ると、関東は同-24.0%と前月(同+27.8%)から大幅に減少。同様に全国も同-6.5%と前月(同+14.4%)から減少した。いずれも 2 カ月ぶりのマイナス。

公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010 年 1 月~2018 年 11 月)



公共工事請負金額(季調値)の推移(2010 年 1 月~2018 年 11 月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

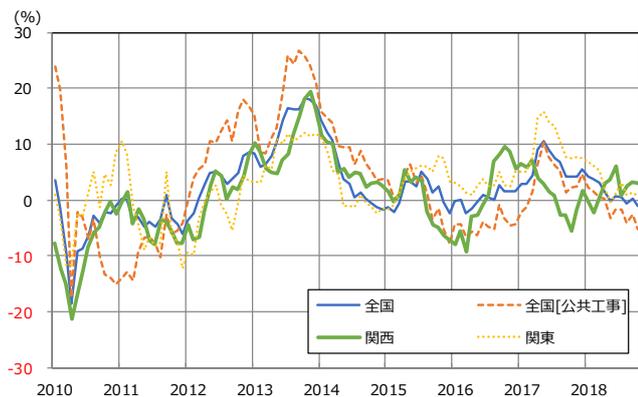
(2) 建設工事

関西 10 月の建設工事出来高は 5,642 億円となり、前年同月比+3.0%と 8 カ月連続の増加。関東は 1 兆 7,001 億円で同+0.8%と 5 カ月連続で増加した。関東ではオリンピック・パラリンピック、関西ではインバウンド関連が支えてきた。今

後は 18 年度補正予算の影響や重要インフラ補修のための公共工事が期待される。

全国 10 月の建設工事出来高は 4 兆 8,507 億円となり、前年同月比-1.1%減少した。うち、公共工事は 1 兆 9,385 億円で同-5.2%と 6 カ月連続のマイナスとなった。公共工事は現在低迷しているが、今後は 18 年度の補正予算の効果が期待される。

建設工事出来高の推移(2010 年 1 月～2018 年 10 月)



(注) 2016 年 4 月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。(出所)国土交通省「建設総合統計」

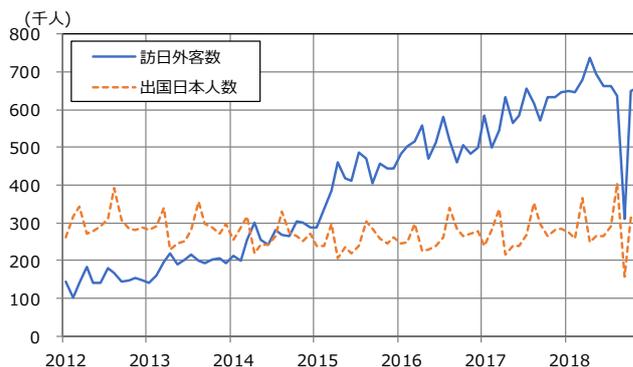
【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

11 月の関空への外国人入国者数は 66 万 130 人となり、伸びは前年同月比+4.5%と 2 カ月連続で増加し、伸びも幾分か加速した。6 月以降、相次ぐ自然災害の影響で落ち込んだものの、入国者数は回復している。また、外国人出国者数は 64 万 9,750 人と同+5.0%と 3 カ月ぶりの増加となった。結果、外国人出入国者数は 130 万 9,880 人で同+4.7%と 2 カ月連続の増加であった。

また、日本人出国者数は 32 万 5,000 人で、前年同月比+15.4%と 2 カ月連続で増加した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012 年 1 月～2018 年 11 月)



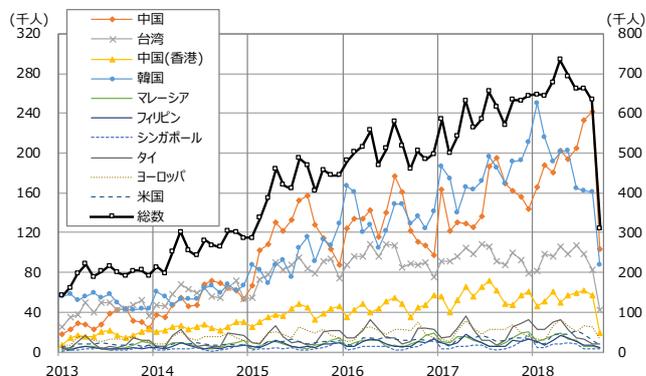
(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、9 月は関空一時閉鎖の影響により、いずれの国・地域も前年比で大幅減少した。国・地域別に見ると、中国(香港除く)からの入国者数が 10 万 3,562 人と 4 カ月連続で最多となったものの、前年同月比-38.9%と大幅に減少した。次いで、韓国が 8 万 7,582 人(同-48.4%)、台湾が 4 万 1,740 人(同-52.0%)、香港が 1 万 8,644 人(同-61.0%)であった。韓国・台湾・香港からの入国者数は 4 カ月連続で減少している。

他のアジア各国は、タイが 7,929 人(前年同月比-31.7%)、マレーシアが 4,609 人(同-48.6%)、フィリピンが 3,832 人(同-32.0%)、シンガポールが 3,097 人(同-11.5%)であった。他地域を見ると、欧州全体では 1 万 3,477 人(同-40.8%)、米国が 6,546 人(同-41.1%)であった。

地域別訪日外客数(右軸：総数、左軸：各国、2018 年 9 月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

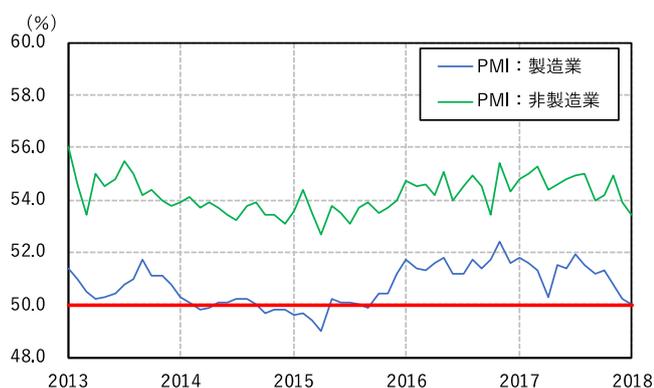
【中国景気モニター】

(1) センチメント

11月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.0となり、前月比-0.2%ポイント低下し、3カ月連続で悪化した。非製造業PMIは53.4となり、同-0.5%ポイント低下し、2カ月連続で悪化した。

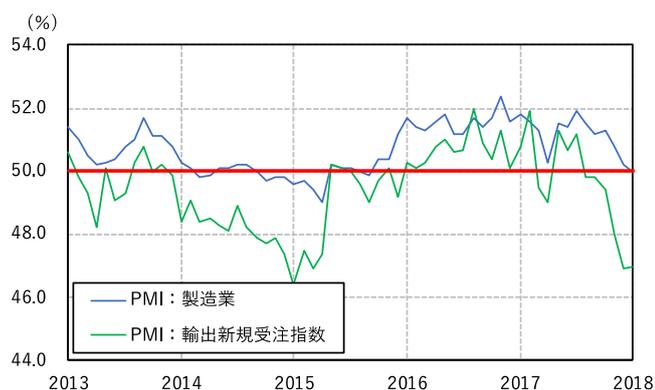
製造業PMIのうち、生産指数は51.9と前月から-0.1%ポイント低下し、3カ月連続の悪化。輸出新規受注指数は47.0と同+0.1%ポイント上昇し、4カ月ぶりの改善だが、米国の制裁関税(3月公表、7月から実施)の影響を受け、6月以降6カ月連続で50を下回った。雇用指数は48.3と同+0.2%ポイントと2カ月ぶりの上昇も、20カ月連続で50を下回った。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2013年11月～2018年11月)



(出所) 中国国家統計局; CEICデータベース

製造業購買担当者景況指数(2013年11月～2018年11月)



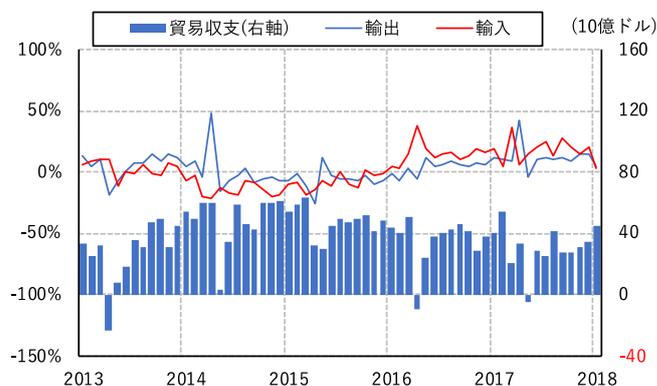
(出所) 中国国家統計局; CEICデータベース

(2) 貿易動向

11月の貿易収支は447.5億ドルで8カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,274.2億ドル、前年同月比+4.6%と8カ月連続の増加。輸入額は1,826.7億ドル、同+3.1%と25カ月連続で増加した。

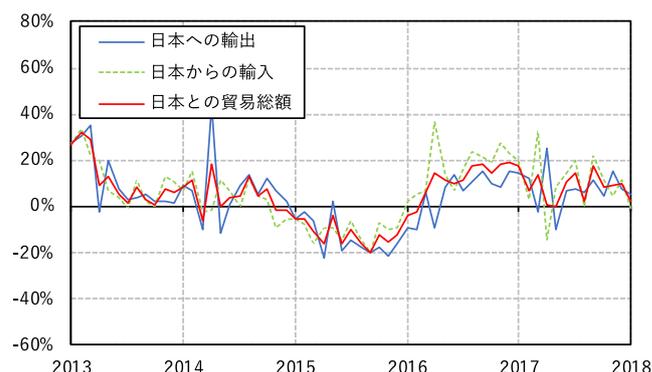
また、対日貿易収支は-13.04億ドルとなり、22カ月連続の赤字となった。対日輸出額は139.8億ドルとなり、前年同月比+4.8%と8カ月連続の増加。対日輸入額は152.9億ドルとなり、同-1.3%で9カ月ぶりの縮小。なお、円ベースで見ると、対日輸出額は同+5.2%と8カ月連続の増加。一方、対日輸入額は同-0.9%と5カ月ぶりで減少した。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2013年11月～2018年11月)



(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR計算

日本との貿易(円ベース, 2013年11月～2018年11月)

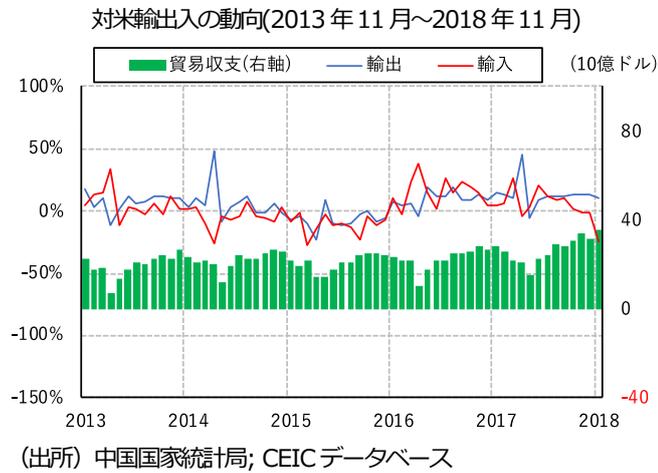


(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR計算

【最近の対米貿易】

11月の中国の対米貿易黒字は355.5億ドル(前月: 317.8億ドル)となり、前年同月比+27.6%拡大した。8カ月連続の

プラス。同月の対米輸出額は462.2億ドルと同+9.8%で、8カ月連続の増加。一方、対米輸入額は106.7億ドルとなり、同-25.0%と3カ月連続の減少であった。

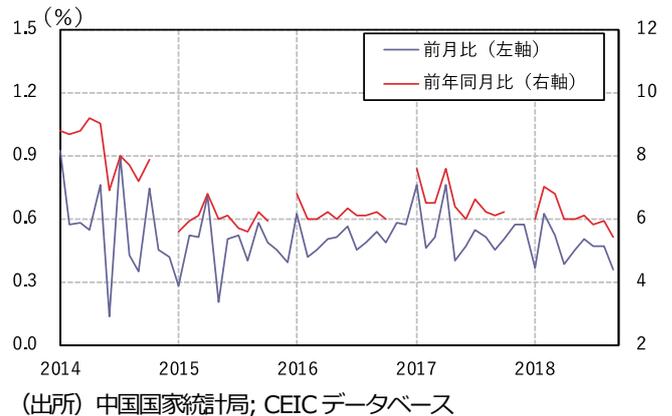


12月1日の米中首脳会談(G20:アルゼンチン)では、「貿易不均衡」、「市場開放」、「知的財産」、「公正な競争環境」、「ハイテク」など分野を巡って会談が行われた。米国は制裁関税の第3弾として、関税率を10%から25%に引き上げる予定だったが、2019年3月以降に猶予した。一方、中国は米国の自動車関税の引き下げ(40%→15%)、米大豆の輸入を再開した。米国の要求について、農産品やエネルギーの輸入を拡大、サービスや農業の規制緩和、知的財産を強化、国有企業に対する優遇の解消などを回答したが、「中国製造2025」政策の見直しは拒否した。この結果、米中貿易摩擦が一時的な緩和が期待されるが、ハイテク産業育成政策などについて、米中間の合意の達成は容易ではない。貿易摩擦の長期化が懸念される。

(3) 工業生産

11月の工業生産は前月比+0.36%となり、伸びは前月から-0.11%下落した。また、前年同月比+5.4%と前月から-0.5%ポイント下落し、2008年11月(同+5.4%)以来の低水準であった。

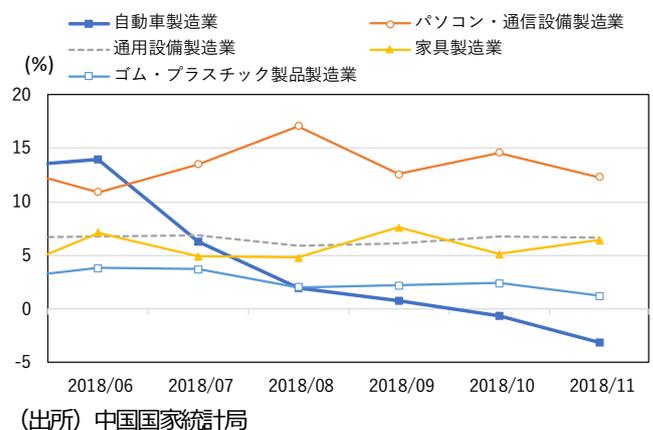
工業生産指数(2013年11月~2018年11月)



産業別に見ると、有色金属压延加工業(前年同月比+12.8%)、鉄道・輸送機器製造業(同+12.7%)、専用設備製造業(同+12.4%)などが高い伸びを示す一方で、化学原料・食品製造業(同+1.9%)、繊維工業(同+1.5%)、ゴム・プラスチック製品製造業(同+1.2%)などは比較的低調な伸びにとどまった。

米国の対中制裁関税実施に伴い(2018年7月)、中国の関連産業は影響を受けている。特に、自動車製造業は前年同月比+14.0%(6月)から-3.2%(11月)へと、5カ月連続で減産した。また、別統計(工作機械統計:一般社団法人日本工作機械工業会)で見ると、日本の対中工作機械受注額は3月以降、前年比割れが続いており(10月(確報値):前年同月比-36.5%)、中国製造業を取り巻く状況の厳しさを示唆している。

品目別生産量の伸び率(2018年3月~11月, 前年同月比)

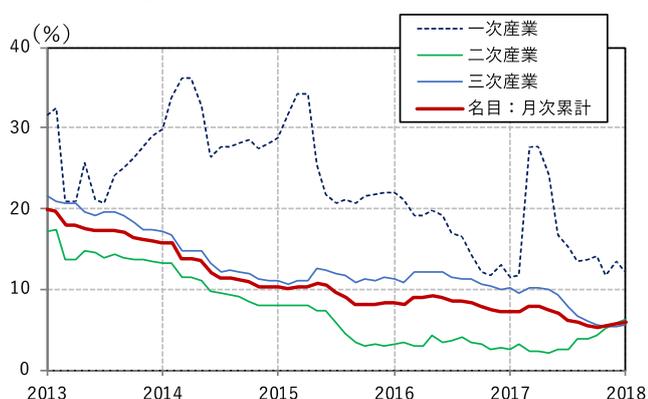


(4) 固定資産投資

1-11 月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+5.9%となり、1-10 月期(同+5.7%)より+0.2%ポイント小幅上昇し、3 カ月連続で加速した。米中貿易摩擦による景気減速に対応するため、中国政府が内需拡大方針に転換した影響が見られる。

また、第1次産業は前年同期比+12.2%増加し、伸びは前月から-1.2%ポイント下落した。第2次産業は同+6.2%と前月から+0.4%ポイントと6 カ月連続で加速。第3次産業は同+5.6%で、伸びは前月から+0.2%ポイントと2 カ月連続で加速した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2013年11月～2018年11月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

11 月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+8.1%となり、2003 年 5 月(同+4.3%)以来の低水準である。伸びは前月から-0.5%ポイント下落し、2 カ月連続の減速。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、伸びは同+5.9%と前月から+0.1%ポイント上昇し、3 カ月ぶりに加速した。

社会消費品小売総額(2013年11月～2018年11月)



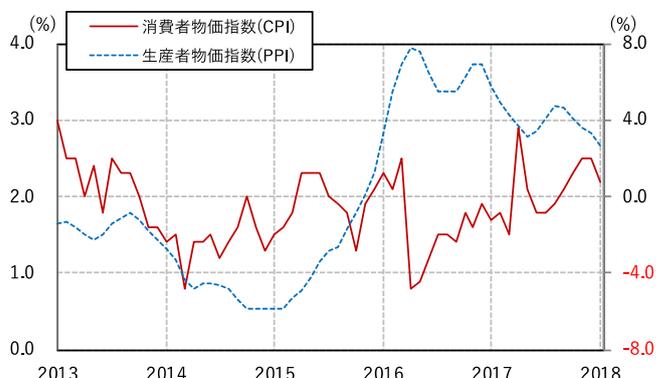
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

11 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.2%で、前月から-0.3%ポイント下落し、7 カ月ぶりの減速。うち、食品価格は同+2.5%上昇し、CPI への寄与度は+0.49%ポイントであった。なお、アフリカ豚コレラの影響から豚肉価格は同-1.1%下落した(6 カ月連続)。また、非食品価格は同+2.1%上昇し、CPI への寄与度は+1.68%ポイントであった。なお、ガソリン、ディーゼルオイル価格はそれぞれ+12.8%、+14.2%上昇し、CPI への寄与度は+0.25%ポイントだった。

また、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+2.7%となり、前月から-0.6%ポイント下落し、5 カ月連続で減速した。うち、生産財(生産資料)価格は同+3.3%上昇にとどまり、前月から-0.9%ポイント減速した。消費財(生活資料)価格は同+0.8%上昇し、前月から+0.1%ポイント上昇した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2013年11月～2018年11月)

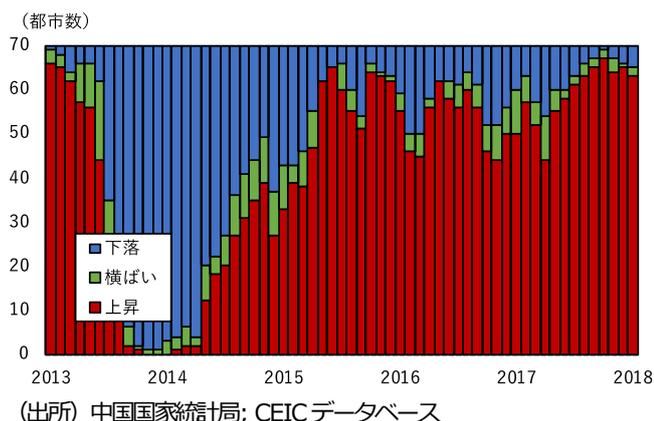


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

11月の不動産市場はやや足踏みが見られる。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は63で前月から2都市減少した。一方、下落した都市数は5で前月から1都市増加した。また、横ばいの都市数は2で前月から1都市増加した。

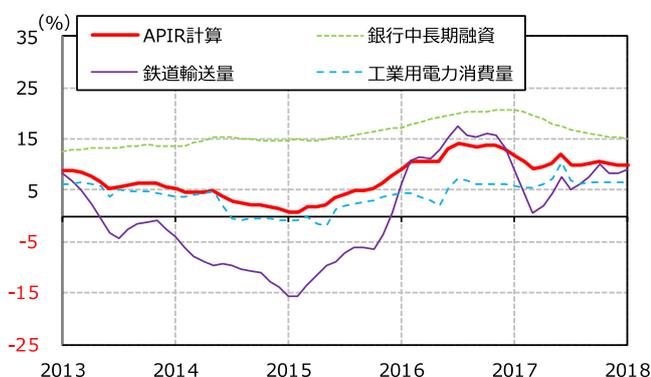
新築住宅価格の主要都市集計(2013年11月~2018年11月)



(8) リコノミクス指数

10月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+10.0%と前月と同水準を維持した。内訳をみると、銀行中長期融資は同+14.9%となり、伸びは前月から-0.3%ポイント低下し、13カ月連続の減速。鉄道輸送量は同+8.9%となり、伸びは前月から+0.5%ポイント増加し、3カ月ぶりの加速。工業用電力消費量は同+6.5%となり、伸びは前月と同水準である。

APIR 試算のリコノミクス指数と内訳(2018年10月まで)



Contact : 木下祐輔・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰
Tel. 06-6485-7694
E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	17/11M	17/12M	18/1M	18/2M	18/3M	18/4M	18/5M	18/6M	18/7M	18/8M	18/9M	18/10M	18/11M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	55.2	56.2	52.4	50.7	50.1	50.1	47.5	48.6	46.7	49.6	48.8	52.5	52.8
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	51.7	49.9	53.4	51.0	52.3	52.1	50.8	52.4	50.8	51.2	52.9	52.8	53.4
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	54.1	53.9	49.9	48.6	48.9	49.0	47.1	48.1	46.6	48.7	48.6	49.5	51.0
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	53.4	52.7	52.4	51.4	49.6	50.1	49.2	50.0	49.0	51.4	51.3	50.6	52.2
消費者心理・小売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	43.8	43.4	44.4	43.2	42.9	42.9	43.2	43.3	42.9	43.2	42.7	42.6	42.4
[関西]〃暮らし向き(原数値)	41.9	40.9	42.2	40.6	40.6	40.7	41.5	41.5	40.9	41.2	39.6	40.5	40.3
[関西]〃収入の増え方(原数値)	41.9	41.0	42.7	41.8	41.1	41.6	42.1	41.7	41.8	41.8	41.8	40.8	40.9
[関西]〃雇用環境(原数値)	48.2	49.1	49.3	48.2	48.5	47.4	47.1	47.4	47.0	47.9	47.1	46.6	46.4
[関西]〃耐久消費財の買い時判断(原数値)	43.3	42.7	43.4	42.2	41.3	41.7	42.1	42.4	41.9	41.7	42.2	42.3	42.0
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	44.6	44.6	44.6	44.3	44.3	43.6	43.8	43.7	43.5	43.3	43.4	43.0	42.9
[関西]大型小売店販売額(10億円)	329.4	410.6	332.9	286.3	316.9	305.1	302.8	306.5	331.0	304.9	287.8	310.5	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	1.7	1.0	0.6	-0.1	1.0	0.2	-2.0	0.5	-2.4	-0.2	-2.0	0.1	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,671.3	2,092.1	1,682.6	1,456.5	1,635.1	1,556.4	1,566.4	1,603.0	1,700.2	1,575.0	1,513.6	1,586.2	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	1.4	1.2	0.5	0.5	0.2	-0.1	-1.4	2.1	-1.0	0.6	1.1	-0.2	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	11,764	10,224	9,196	11,387	10,788	13,392	14,140	11,737	12,151	11,768	12,545	11,496	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	-4.0	-7.7	-19.4	7.0	-8.5	13.4	27.2	-2.2	-3.6	-0.2	10.5	-5.5	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	84,703	76,751	66,358	69,071	69,616	84,226	79,539	81,275	82,615	81,860	81,903	83,330	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	-0.4	-2.1	-13.2	-2.6	-8.3	0.3	1.3	1.3	-7.1	-0.7	-0.7	-0.7	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	76.9	78.6	81.9	84.9	67.1	70.4	66.6	73.1	72.1	78.8	74.8	79.2	73.6
[関西]マンション契約率(原数値)	77.7	74.9	78.1	83.9	67.3	71.0	69.5	75.6	74.0	80.6	72.8	77.7	74.4
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	68.1	74.0	68.1	63.5	73.0	63.3	61.0	64.1	62.6	64.9	68.5	73.1	54.0
[首都圏]マンション契約率(原数値)	67.9	72.5	65.2	65.0	74.7	63.0	62.2	66.0	67.8	64.5	66.5	67.5	53.9
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	85.4	97.5	65.4	49.8	122.2	211.7	116.4	134.5	140.9	95.4	109.3	116.9	94.7
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	13.2	1.8	7.5	-26.9	3.4	4.9	-21.0	9.9	17.1	-7.1	-21.6	-10.0	10.9
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	863.3	797.3	610.1	613.9	1,269.7	2,177.7	1,285.7	1,433.9	1,252.0	1,124.1	1,218.6	1,282.3	818.9
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	5.0	-6.4	-12.8	-20.2	-14.5	5.5	3.5	-5.6	-2.9	-2.2	-7.6	9.5	-5.2
[関西]建設工事(総合、10億円)	586.5	608.9	589.9	570.2	558.6	484.7	482.3	513.4	504.7	529.4	554.3	564.2	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	-1.8	1.6	0.0	-2.2	0.2	2.9	3.7	6.2	0.9	2.5	3.3	3.0	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,970.9	5,054.8	4,929.2	4,808.8	4,751.6	3,960.9	3,893.5	4,124.0	4,264.0	4,447.2	4,705.1	4,850.7	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	4.3	5.4	4.3	3.7	3.1	1.5	-0.2	0.7	0.5	-0.5	0.3	-1.1	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	2,085.1	2,164.5	2,094.8	2,041.1	2,047.6	1,455.3	1,380.9	1,479.7	1,540.2	1,642.2	1,826.6	1,938.5	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	2.5	4.6	2.2	1.6	0.5	0.3	-3.3	-1.7	-1.8	-4.1	-2.6	-5.2	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	108.9	110.7	103.1	105.9	108.3	113.9	106.7	107.7	105.6	108.4	104.3	105.9	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	3.0	1.7	-6.9	2.7	2.3	5.2	-6.3	0.9	-1.9	2.7	-3.7	3.3	UN
[関西]〃出荷指数(原数値、前年同月比%)	1.6	1.3	1.6	-0.8	1.2	5.1	3.5	-1.7	1.0	-0.4	-4.1	7.0	UN
[関西]〃在庫指数(原数値、前年同月比%)	10.2	9.7	6.8	5.6	8.2	3.5	1.0	0.7	-1.7	-3.0	0.0	-3.9	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	107.8	108.3	101.1	104.1	104.7	111.1	105.6	105.9	102.9	106.2	99.3	108.1	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	5.5	0.5	-6.6	3.0	0.6	6.1	-5.0	0.3	-2.8	3.2	-7.0	6.7	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	121.2	122.9	122.9	121.9	127.0	127.2	125.5	122.9	120.8	120.2	124.3	97.7	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	-3.0	1.4	0.0	-0.8	4.2	0.2	-1.3	-2.1	-1.7	-0.5	3.1	-2.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	103.5	105.4	100.7	102.7	104.1	104.6	104.4	102.5	102.3	102.5	102.9	105.9	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	0.7	1.8	-4.5	2.0	1.4	0.5	-0.2	-1.8	-0.2	0.2	-0.4	2.9	UN
[全国]〃出荷指数(原数値、前年同月比%)	2.4	4.3	2.2	0.7	1.4	3.6	3.3	-0.2	1.2	0.5	-2.9	-2.9	UN
[全国]〃在庫指数(原数値、前年同月比%)	2.8	1.9	1.5	1.6	3.9	1.7	2.5	2.4	2.8	3.0	3.5	-0.7	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	101.3	103.3	98.7	100.3	101.5	103.1	101.5	101.8	99.8	101.5	101.1	104.6	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	1.9	2.0	-4.5	1.6	1.2	1.6	-1.6	0.3	-2.0	1.7	-2.0	3.5	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	109.8	109.8	109.3	109.9	113.5	112.8	113.5	111.4	111.2	110.8	102.6	101.3	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.6	0.0	-0.5	0.5	3.3	-0.6	0.6	-1.9	-0.2	-0.4	1.2	-1.3	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	1.3	1.7	1.3	0.8	1.6	1.2	1.4	0.5	1.2	0.5	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	1.4	1.9	1.9	1.0	1.8	1.8	2.1	0.4	2.5	0.8	-0.6	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.9	0.9	1.2	1.0	2.0	0.6	2.1	3.3	1.6	0.8	0.8	1.5	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.9	3.2	2.6	2.7	2.7	2.7	2.6	3.0	2.9	2.8	2.9	3.0	UN
[関西]完全失業率(原数値)	2.6	2.8	2.7	2.8	2.7	2.6	2.5	3.0	3.0	3.0	3.1	3.0	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.7	2.7	2.4	2.5	2.5	2.5	2.2	2.4	2.5	2.4	2.3	2.4	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.34	2.36	2.37	2.34	2.44	2.39	2.37	2.53	2.54	2.46	2.61	2.53	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.34	2.38	2.34	2.30	2.41	2.37	2.34	2.47	2.42	2.34	2.50	2.40	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.51	1.52	1.54	1.54	1.57	1.56	1.56	1.58	1.60	1.62	1.64	1.63	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.56	1.59	1.59	1.58	1.59	1.59	1.60	1.62	1.63	1.63	1.64	1.62	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	162.8	256.1	-54.7	133.6	368.4	236.3	82.3	268.1	85.6	179.2	179.8	115.9	20.2
[関西]輸出(10億円)	1,520.4	1,589.4	1,303.4	1,353.5	1,607.2	1,443.2	1,402.8	1,520.9	1,434.1	1,519.3	1,119.4	1,517.8	1,504.9
[関西]輸出(前年同月比%)	21.5	12.0	19.5	0.0	8.9	8.1	13.2	9.9	7.9	9.9	-24.5	6.5	-1.0
[関西]輸入(10億円)	1,357.6	1,333.4	1,358.1	1,220.0	1,238.8	1,207.0	1,320.5	1,252.8	1,348.6	1,340.1	931.7	1,401.9	1,484.7
[関西]輸入(前年同月比%)	15.5	18.0	5.5	22.3	-1.2	4.0	15.3	3.4	12.9	9.8	-24.4	10.8	9.4

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

Release Calendar for November/December

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
19-Nov 財務省貿易統計 (10月:速報値) 大阪税関貿易統計 (10月:速報値)	20-Nov 出入(帰)国者数 (10月)*	21-Nov	22-Nov 毎月勤労統計調査 (9月:確報値)	23-Nov 中国輸出入 (10月:確定値)
26-Nov 出入国管理統計 (9月)	27-Nov 近畿地域 鉱工業生産動向 (9月:確報値) 中国製造業 PMI (11月)	28-Nov	29-Nov 財務省貿易統計 (9月:確報値) 財務省貿易統計 (10月:確・速) 商業動態統計 (10月:速報値) 一般職業紹介状況 (10月) 労働力調査(10月) 消費動向調査(11月)	30-Nov 鉱工業指数 (10月:速報値) 建築着工統計調査 (10月)
3-Dec	4-Dec	5-Dec	6-Dec 毎月勤労統計調査 (10月:速報値)	7-Dec 中国輸出入 (11月:速報値)
10-Dec 景気ウォッチャー調査 (11月) 大阪税関貿易統計 (9月:確報値)* 大阪税関貿易統計 (10月:確・速)* 中国 CPI&PPI (11月)	11-Dec 近畿地域 鉱工業生産動向 (10月:速報値)	12-Dec	13-Dec 商業動態統計 (10月:確報値)	14-Dec 鉱工業指数 (10月:確報値) 公共工事前払金保証 統計(11月) 中国固定資産投資 (11月) 中国工業生産 (11月) 中国消費小売総額 (11月) 中国不動産市場 ** (11月)
17-Dec マンション市場動向 (11月) 建設総合統計 (10月)	18-Dec	19-Dec 財務省貿易統計 (11月:速報値) 大阪税関貿易統計 (11月:速報値)	20-Dec 出入(帰)国者数 (11月)*	21-Dec 毎月勤労統計調査 (10月:確報値)
24-Dec 中国輸出入 (11月:確定値)	25-Dec 近畿地域 鉱工業生産動向 (10月:確報値) 出入国管理統計 (10月)	26-Dec	27-Dec 財務省貿易統計 (10月:確報値) 財務省貿易統計 (11月:確・速) 建築着工統計調査 (11月)	28-Dec 鉱工業指数 (11月:速報値) 一般職業紹介状況 (11月) 労働力調査(11月) 商業動態統計 (11月:速報値)

*印は発表予定日が未定。 **公表日は翌日。